

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年6月)

～物価やコストの上昇による悪影響で、現状判断は続落～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断が54.5と前月比で2か月連続の低下(-1.0ポイント)となった。ただし、好不調の目安となる50は6か月連続で上回っている。一方、先行き判断も54.3と3か月連続の低下(-0.9ポイント)となった。
- 足元の景気については、新型コロナの5類移行で都市部の人流が増えているほか、インバウンドの増加を背景に、百貨店や都市型ホテルを中心に好調な動きが続いている。ただし、旅行関連では国内客の需要の鈍化を指摘する声が出始めており、少し状況が変わりつつある。
- 一方、物価やコストの上昇が続く中、多くの業種で悪影響が顕在化している。スーパーや家電量販店をはじめとする小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化を懸念する声が多い。結果として、今月は梅雨による悪天候での客足の減少も重なり、物価やコストの上昇による悪影響が目立つ形となった。
- 先行きについては、インバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテルなどを中心に引き続き大きい。特に多いのが、中国からの観光客の増加を期待する声であり、これまでの遅れを取り戻す動きが期待されている。そうした中、国内客に関しては、夏休みの旅行は増加が見込まれるものの、全国旅行支援が終了した地域もあり、需要の一巡を指摘する声が出始めている。
- 一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。スーパーやレストラン等での節約志向に対する懸念が広がっているほか、価格転嫁については、製造業や建設業といった企業関連でも厳しい声が多い。円安水準の調整がなかなか進まない点も、先行きへの不安に拍車をかけており、コストや諸物価の上昇に対する不安は、業種を問わず広がっている。結果として、先行きは株高や猛暑による需要の増加への期待もあるものの、全体としては物価やコストの上昇への懸念が目立つ形となっている。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・6月に入って来客数がかなり増え、前年比で20%の増加となっている。また海外からの客が増加し、雑貨やジュエリーなどの商品によっては、インバウンド売上が前年の4倍以上と、かつての水準も上回る形となった。国内需要も増えるなか、来客数と客単価の両方が好調なバッグやアクセサリがけん引し、コスメや食品などの商材も順調に動いている。一方、気温に左右される商材は、例年よりも動きが遅い。気温に適した商材を買うという、購入スタイルが増えている。
		都市型ホテル(フロント)	・対面型での研修や出張の動きも戻っており、国内客、インバウンド共に好調であったが、単価は4～5月と比べて低い。
		旅行代理店(役員)	・国内旅行だけでなく、インバウンドの増加にけん引されるように、海外旅行が増えている。
	なっている やや良くなる	百貨店(売場主任)	・今月は売上目標を達成する見込みであり、国内客の来店は前年比で増加している。ただし、外出の増加で関連商品の動きは良いが、かつての水準には達していない。一方、インバウンドの来店も増えており、特選洋品や化粧品を中心に売上が増加している。

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（管理担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、消費者が外出や買物を楽しむことへの抵抗感が次第に薄らいでいる。インバウンド需要もかつての状況にかなり戻っている。	
		百貨店（サービス担当）	・今月もこれまでの傾向に変化はなく、好調に推移している。特に、高級ブランド品や化粧品、婦人雑貨の需要が好調で、売上は前年比で約10%増えている。来客数も好調で、特にインバウンドが東南アジアを中心に増えており、売上の確保に貢献している。	
		百貨店（売場マネージャー）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行後、以前のライフスタイルに戻りつつある。訪日観光客の増加も後押しとなり、景気は回復傾向にある。	
		百貨店（販促担当）	・現状の環境に対する慣れが、少し良い方向にはたらいっている。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているとのニュースも関心と呼ばず、街ではマスクを着けない人の割合が日に日に増え、インバウンドも増加傾向にある。物価の上昇は様々な品目で続いているが、人出が止まるほどではなくなっている。来客数の順調な増加に比例し、売上も堅調に推移している。	
		百貨店（販売推進担当）	・東南アジアからの来訪の増加によるインバウンド需要の高まりで、以前から好調であった高級輸入商材に加え、化粧品もメイクアップ商品を中心に回復傾向にある。国内客についても、化粧品や婦人用品などが回復している。	
		百貨店（営業推進担当）	・相次ぐ値上げの影響もあり、ゴールデンウィーク前後は特選ブランドを中心とする高額品の売行きがやや鈍化していたが、徐々に回復し、2019年比でも大きく伸びている。一方、インバウンドも想定以上の回復をみせており、売上は好調に推移している。	
		百貨店（外商担当）	・時計や海外ブランドの高額品を中心に、好調な売上が続いている。売上は2019年を上回る状況で推移しており、インバウンド関連も過去最大の売上となっている。	
		百貨店（商品担当）	・インバウンド向けの商材を中心に、3か月前と比べて売上が増えている。	
		百貨店（宣伝担当）	・インバウンドがかなり増えており、円安効果も加わって、特選ブランドや時計、化粧品を中心に、予想を上回る売上となっている。梅雨入りが早く、季節商材が苦戦すると予想されたが、これもインバウンドの増加で堅調な動きがみられる。	
		百貨店（マネージャー）	・全体的には、インバウンド需要の好調に支えられている。国内客の売上は前年比で数%前後の増加に落ち着いてきたが、ハレの日需要や外出の動きは活発で、化粧品や特選アイテムは好調に推移している。また、衣料品や食品関連については、全体的に来客数の減少を、商品単価の上昇で何とかカバーしている。	
	コンビニ（経営者）	・欧米からのインバウンドが増え、特に20～22時頃の来客数が増加している。一方、東南アジアからの客は余り増えていない。		
	都市型ホテル（客室担当）	・観光業界は、インバウンド需要の安定や、新型コロナウイルスの5類感染症への移行による効果で、好調に推移している。		
	都市型ホテル（客室担当）	・6月の稼働率は85%前後の予定である。ゴールデンウィーク明けも、コンサートや研修の団体客、インバウンドの需要が多い。		
	その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・インバウンドは引き続き増加傾向にあり、中国からの団体客も少しずつ戻ってきている。一方、今年のゴールデンウィークは、国内客は遠方に旅行する傾向がみられ、近隣の旅行が主体の当社は、前年よりも来客数が減少している。		
	その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・株価の上昇とインバウンド需要の拡大による活性化で、不動産価格の上昇期待が強くなっている。関西はマンション、戸建て住宅共に、高額物件への引き合いは一定レベルでみられる。ただし、低価格帯を中心とした実需物件の動きは鈍く、コロナ禍による反動とみられる影響が出ている。		
	変わらない	百貨店（企画担当）	・前月にみられた傾向が更に拡大している。外国人観光客が大幅に増えた一方、好調が続いていた外商売上が減速している。インバウンドは中国本土からの観光客の増加で、化粧品の売上が増え、特定の人気商品は店頭販売を中止するほどである。外商売上の減少は、人気の高級時計の入荷が厳しいことも影響している。	
		百貨店（マネージャー）	・インバウンドは増えているが、国内客の数はかつての水準になかなか戻らない。ただし、客との会話では、コロナ禍の影響が薄まり、お金を使う場面の選択肢が増えているとの声が多いなど、出費は抑えているものの、消費自体は続いている。	
		家電量販店（営業担当）	・インバウンド需要は戻りつつあるが、当社の業務内容には余り関係がない。物価の上昇が厳しく、購買意欲の低下がみられる。	
	なっている	やや悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕 （営業担当）	・現時点で商売の大半はインバウンドに左右されている。3～4月は花見のシーズンと重なって活況であったが、今は少し落ち着き、売上もやや下降気味である。
	企業関連	やや良くなっている	食料品製造業（営業担当）	・外国人観光客の増加で、飲食店の客足が増え、飲料水の売上が少し良くなっている。
経営コンサルタント			・観光地で宿泊業を営んでいる取引先は、インバウンドはかつての8割にまで回復しているという。ただし、今はまだ欧米からの観光客が多く、中国や韓国、台湾からは少ない。	

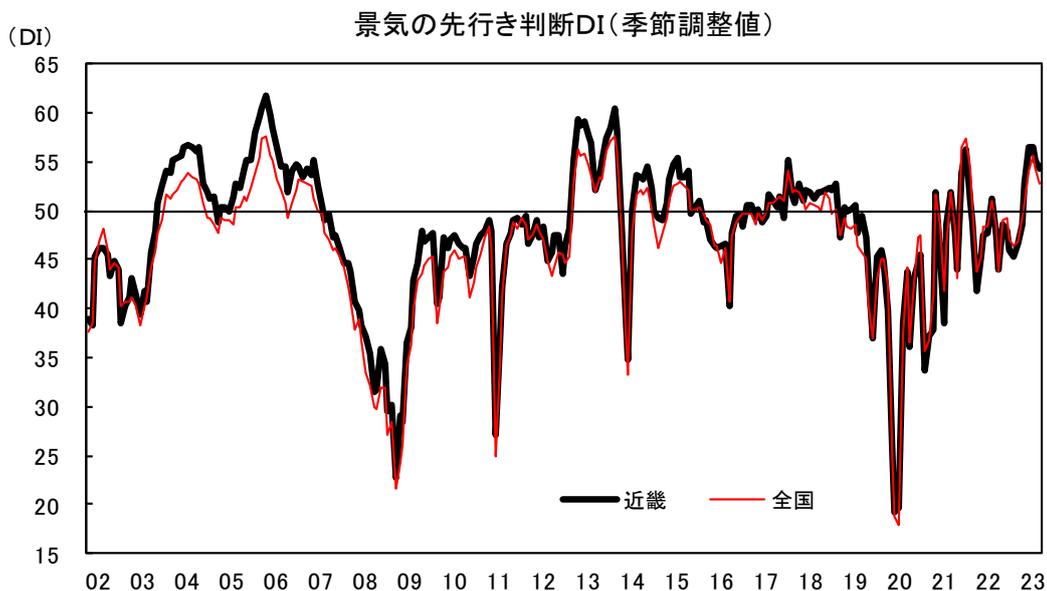
「株高」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	な 良 る く	乗用車販売店（支店長）	・コロナ禍の収束やインバウンドの回復、株価の更なる上昇により、経済の回復余地はまだであると予想される。
	変 わ ら な い	百貨店（マネージャー）	・株価の続伸といった好材料はあるものの、その影響は一部の富裕層にしか波及していない。全体的には、相次ぐ値上げや社会保障負担の増加予想などで、消費マインドは回復しておらず、身の回りの景気が良くなる見込みは薄い。
		その他レジャー施設 [複合商業施設]（職員）	・株価の上昇や、堅調な企業業績といった好材料も多いが、新型コロナウイルスの感染第9波への不安もあり、今後の予測が難しい。
や や 悪 く な る	乗用車販売店（経営者）	・国内では株価が好調であるが、生活面では物価の上昇に直面している。原材料価格も高騰しているが、価格転嫁できない中小企業も多く、景気の先行きが見通せない。海外では、依然としてウクライナとロシアによる戦争が終結せず、メーカーは半導体不足も解消できていない。今後もこの状態がしばらく続く予想される。	
雇用関連	や や 良 く な る	人材派遣会社（役員）	・向こう3か月であれば、人流の回復傾向が続くと予想される。株価の上昇もあるため、個人消費も増加傾向となる。
	変 わ ら な い	新聞社 [求人広告] （管理担当）	・インバウンドの回復の本格化や円安効果もあり、特に高級、高額なサービスや商品を扱う飲食店や百貨店、貴金属などの業種は、今後も好調な動きとなる。株価も上がっているが、過度な円安や物価の上昇は続いており、好調な動きは一部の大企業や個人に偏っている。全体的にみると、今後の景気は現状維持となることが予想される。

「猛暑」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	や や 良 く な る	家電量販店（店員）	・今年の夏は暑くなる予想であり、梅雨が明けるとかなり気温が上がるため、主力のエアコン需要は増える見込みである。ただし、競合他社による出店もあり、需要が分散されることで厳しい状況も予想される。
		家電量販店（人事担当）	・梅雨明け以降、猛暑になると予想されているため、エアコンや冷蔵庫、洗濯機の販売量が伸びる。
		美容室（店員）	・マスクの着用が緩和され、外出の動きが増えているため、来店のペースがかつての水準に戻りつつある。6月末からの暑さによる予約の増加も、今後の売上の期待材料である。
	変 わ ら な い	スーパー（店員）	・雨が続けば、野菜の価格が変わるほか、果物の生育状況も変わるため、今後の更なる値上げにつながれば、ますます厳しくなる。また、暑くなり過ぎても、同じように厳しい状況となる。
		家電量販店（企画担当）	・電気代を中心とした光熱費の値上げと、夏の猛暑が重なり、エアコンの利用の増加による家計への影響はかなり大きくなる。それに伴い、耐久消費財への消費はかなり落ち込むと予想される。
企業関連	変 わ ら な い	タクシー運転手	・タクシー料金も含め、様々な物の価格が値上がりしているが、暑くなるとタクシーの利用は増えると期待している。
		その他非製造業 [機械器具卸]（経営者）	・今年の夏は非常に暑くなるとの予想であり、今後は動きが活発になると期待される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年			22年												23年									
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
現状判断	近畿	47.0	48.3	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5
	(全国)	45.8	48.1	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6
先行き判断	近畿	51.8	47.7	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3
	(全国)	51.9	48.2	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8

※季節調整値